



第2回てだこキッズファイヤーフェスタ

消防士の仕事を
体験しよう！

はしご車試乗体験
放水体験
救助訓練体験
消火体験
消防車両の展示 など

カキ氷コーナーや
記念品もあるよ！



今年もてだこキッズファイヤーフェスタを開催します。
消防車両を目の前で見ることができ、消防士の仕事を実際に体験でき
ます。また、救助隊の訓練も披露します。
皆さんのご参加をお待ちしています！

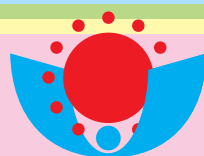
11月29日（日） 午前10時～午後1時30分
（受付開始午前9時30分）

※雨天決行ですが、内容を変更する場合があります

場 所：浦添市消防署（前田）
駐 車 場：浦添市役所地下・裏立体駐車場
（マイクロバスで会場までの送迎あり）
内 容：消防士体験・救助隊による訓練披露など
対 象：市内在住の小学生 先着200名 ※必ず保護者同伴
保 険：市民総合賠償補償保険適用
申込期間：11月1日～11月20日（土日を除く）
午前9時～午後5時
申込方法：申込期間内に電話にて下記までお申込みください。
詳しくは市のホームページをご覧ください。
※新型インフルエンザの感染拡大によってはフェスティバルを中止にする
場合があります。

申込み・問い合わせ 浦添市消防本部総務課
☎875-0105

第2期生 学生募集



てだこ市民大学

今年の5月に開講された「てだこ市民大学」の第2期生を募集します。「てだこ市民大学」では、2年間の在学期間
での学習成果を地域社会や学校教育等に還元し、浦添市のまちづくりに寄与できる有為な人材を育成することを
目的としています。市内在住・在勤・在学の方なら誰でも応募できます。皆さまのご応募をお待ちしています。

募集内容 募集学部：コミュニティビジネス・地域振興学部
健康福祉・スポーツ振興学部
文化振興・教養学部

地域・学校支援コーディネーター養成学部
定 員：各学部 15名（うち5名は各種団体等からの推薦とします）
出願期間：11月25日（水）～12月9日（水）【当日消印有効】
説 明 会：11月25日（水）午後7時30分～午後9時 市役所9階講堂

11月2日から学生募集要項の配布を開始します。てだこ市民大学事務局（生涯学習振興課内）の他、地域の自治
会事務所、中央公民館、市内公立学校等でも受け取れます。

問い合わせ てだこ市民大学事務局（生涯学習振興課内）
☎876-1234（内線6064）



チバリョーパト！



ロビンソン・パトリク
Patrick Robison
2008年8月から国際交流員として、
浦添市役所国際交流課に配属される。
米国アイダホ出身。

文・英訳：ロビンソン・パトリク

新しいから面白いとは限りません！

沖縄、また日本本土に住んでいる多くの外国人と同じように、私はこの
国の伝統文化が大好きです。エキゾチックという理由からではありません。
容易に民俗舞踊や書道に参加できる社会に生まれた人にとって少し分り
にくいかもしれませんが、世界のほかの国々では、気軽に伝統文化に参加
できないところが多くあります。例えば、私は母国の歴史をもっと知りた
いという思いでアメリカの民謡に興味を持ちましたが、その弾き方を習う
ためにはほとんどが古い記録や楽譜に頼るしかありません。生演奏で聴く
ことはめったにない出来事です。現代生活に関係がないと言われ、洗練さ
れた伝統文化が忘れられていくことは、残念ながらよくある傾向ですね。

本市国際交流課で、毎年南米からの研修生を受け入れています。日本
語や沖縄の文化を勉強するのが研修の目的です。勉強のひとつに、琉球
舞踊を習います。幸いなことに、今年ブラジル出身のダルシオさんと一緒
にお稽古に参加しないと、先生に誘われました。去年の秋に初級の琉球
舞踊講座に参加したことがあり、ためらわずに「はい！参加させて下さい」
と承諾しました。

現在「ぬちばな」を勉強中です。にぎやかで速く踊るので、あまり琉球
舞踊に詳しくなくても、すぐ楽しめられる踊りだと思います。踊ってみて、
やはり私に生まれつき才能がないと気づきましたが、そんなことは気にし
ません。集中して音楽に合わせて動くと、いつも喜びを体全体で感じます。

舞踊のお稽古に参加することは観客としての利益にもなると思います。
プロの舞踊家が優雅に踊れるようになるまで、何年にも渡って技術を磨き
ます。踊ってみることでプロの忍耐力に気づき、舞台をより一層深く味わ
うことができます。観客の目から見れば楽々と踊っているように見えるかも
しれませんが、舞台上上がって挑戦してみればそうではないとすぐ分り
ます。

踊るとき、音楽を演奏するとき、筆で難しい漢字を綺麗に書こうと努力
するとき、夢中になる瞬間があり、自分の存在まで忘れることもあります。
このように一時的に時間の流れを意識せず無我夢中になることは、伝統文
化の体験から得る「喜び」が決して無関係ではないという証明だと思います。
これからの世代にも伝統文化の喜びを知る機会がいっぱいありますよ
うに！

The Heady Joys of Tradition

As is often the case with foreigners who come to live in Okinawa or
elsewhere in Japan, I am drawn to the various traditional arts which are
practiced in this country. It's more than the fact that they seem exotic to
me. Perhaps it's difficult to understand if one has grown up with ready
access to activities such as folk dance or calligraphy, but in many
countries around the world it takes a considerable effort to establish
contact with what we call "traditional culture". For example, in an attempt
to better appreciate my country's history I have developed an interest in
traditional American folk music, but I have had to study this music largely
from texts or old recordings as I rarely hear it performed live nowadays.
In an unfortunate trend, elegant traditional culture is often left along the
wayside because people find it esoteric or irrelevant to modern life.

In the International Relations Section, each year we host South
American interns of Okinawan descent who study Japanese and
Okinawan culture while living in Urasoe. One of the activities which the
interns usually participate in is study of Okinawa's traditional dance,
Ryūkyū buyō. As luck would have it, I was asked by the instructor if I
would like to participate in this year's dance course with Brazilian intern
Darcio. Having participated in an introductory dance class last fall, I
jumped at the chance to pick up my studies again.

We are learning *Nuchibana* at the moment. It is a lively, fast-paced
dance which is easy to appreciate even for the uninitiated such as myself.
While I can't claim to have any inborn talent for dance, I find a simple,
physical joy in concentrating to achieve a desired position or align my
movements to the flow of the music. Trying this dance for myself also
allows me to appreciate more fully the expertise of "real" dancers, those
who spend years of their lives polishing their technique to create a visual
unity between their bodies and the music they dance to. As a spectator it
may look easy, but once on stage, it's an entirely different story!

When dancing, playing music, or writing a difficult Chinese character,
there are moments of pure concentration during which one forgets
completely where they are, who they are, or what they are doing. I think
this transcendence of self and time is proof enough that the joy to be
gleaned from traditional arts is never irrelevant. I hope that the
generations who come after us will have the chance to experience this
same pleasure.

ギャラソーてだこ



Gallery Tedako

作品募集

（テーマは自由です）はがきで送ってください！
※切りは毎月12日迄

〒901-2501 沖縄県浦添市安波菜1-1-1
浦添市役所国際交流課
☎876-1234（内線2613・2614）